

大阪府田尻町教育委員会

実践校：田尻町立小学校（全校児童生徒数：436人、実践研究の対象：第6学年72人）

① 実践研究の趣旨・目的

【めざす児童の姿】よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする子ども

【本校の現状と課題】令和5年5月に学校独自で実施した生活アンケートの項目「地域や社会のために何かできることはないかと考えることがある。」では肯定的回答が77%で、そのうち「あてはまる」は37%であった。与えられたことや決められたことにまじめに取り組むことができるが、自分の意見をもち、それらを発表したり、積極的に考えを出し合い深めることが苦手な児童が多いことが現状である。

② 実践内容

（１）教育委員会等での取組・工夫

伴走型の支援スタイルで、学校と密に連携を図り、日常的な授業見学から指導助言を行った。また、事例紹介や社会科における主権者教育の指導に係る研修会を町内の教職員向けに実施した。そのことにより、学校では取組内容の見直しが図られ、自信をもって進めることができた。また、学校と地域・行政をつなぐ懸け橋となり、子どもたちが教師以外の大人から直接、話を伺う機会を設けた。こうした学習を重ねることで、より自分事として捉えられるようになった。

（２）実践校での取組・工夫

【第5学年】

我が国の各産業における取組や課題を、地域と結び付けて考えることに重点を置き、学習を進めた。地域の現状と課題を知り、議論を重ね子どもたちなりの考える学習経験を基に、我が国の産業の現状や課題を捉える学習活動に組むことにより、子どもたちは、課題を身近に捉え、解決方法について考え、議論することができた。特に、「我が国の水産業」の学習では、地域の水産業の課題と我が国の水産業の課題が一致していたため、より自分事として「これからの水産業の発展」について多角的に考えることができた。

【第6学年】

政治→歴史→国際という学習の流れの中で共通するキーワードを設定した。「だれの願い」、「どのような予算」、「どのような話し合いの場」、「根拠となる法律」の4観点に着目して各単元をまとめることで、1年間を通じて「よりよい社会」について考える機会をもつことができた。また、議論をする際には、その考えが実現可能なものか、他者の考えに寄り添って考えたものか、吟味しながら進めた。「住民の願いを実現する政治」では公共施設ができるまでの人の働きを学び、それを生かして、実際に住民の願いが形になっていくまでの経緯を役場職員から聞き取ったことで、自分たちの行動によって地域社会を変えていくことができることを実感した。

（３）校内の実施体制・外部連携

【校内体制】
社会参画力育成プロジェクトにおいて月に一度、情報共有や進捗報告を行う

社会参画力育成 PT

【外部連携・他教科との関わり】

総合的な学習の時間	・漁業体験とインタビュー ・ゲストティーチャー講話 「大阪湾の現状とスナメリ」「世界の海について」「水質調査と水質改善」 ・クリーンハイク・議場体験 ・公共施設についての聞き取り学習 ・選挙についてまとめる
国語科	作文「みんなが過ごしやすい町へ」 図書 関連図書の検索
家庭科	地産地消料理の研究
理科	水質調査
特別活動	話し合い活動

③実践の具体事例【大阪府泉南郡田尻町立小学校第6学年】

【内容のまとめり】（１）我が国の政治の働き 【単元名】住民の願いを実現する政治（１）

【単元目標】政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きやしきみを考え、表現することができる。

時間	単元の指導計画 「住民の願いを実現する政治のしくみ」	
	社会科	関連付けた他教科等
1	わたしたちの願いと たじりっち広場	総合的な学習の時間
2	町役場の働き	総合的な学習の時間
3	町議会の働き	特別活動 総合的な学習の時間
4	税金の働き	総合的な学習の時間
5	「政治のしくみ」について まとめる・ひろげる・深める	総合的な学習の時間

**社会科
第5時
「政治のしくみ
について
まとめる・ひろ
げる・深める」
授業の概要**

**専門家や
関係諸機関
等との連携・
協働**

<概要>

複数の地方公共団体の「住民の願いを実現する政治」の取組を資料を用いて調べ、比較・検討し学びを定着させ、深めていく。

<指導上の工夫>

○社会的事象を自分事として捉え、考えさせる教材や学習活動

田尻町の政治のしくみを学習した上で、資料を用いて他市と比較・検討したことで共通点や差異に気づき、なぜそうなっているのか自分なりの考えをもつことができ、全国の市区町村が日本国憲法を根拠とする国民主権のもと政治を行っていることを理解することができた。

○社会科と他教科等との連携

総合的な学習の時間で、町の大型遊具施設である「たじりっち広場」の企画から完成までの話を聞くことができ、質疑応答も行った結果、誰の願いで建設することになり、どんな場所でどのような話し合いを行ったかを知り、予算や関連する法律についても学習した。また、国などの補助金や助成金を活用していることや管理維持をしていくための費用などについても学習した。

- ・田尻町役場都市みどり課と連携し、たじりっち広場の完成までの取組について学習した。
- ・田尻町議会事務局と連携し、議会体験を行った。たじりっち広場の完成までに行われた議論をもとに台本を作成し、子どもたちが実際に議論を体験した。



【単元評価】国や地方公共団体の政治の取り組みと国民生活を関連付けて、政治の働きやしきみについて考え、表現している。

④取組の成果や効果・課題

【成果】 学校独自で令和6年12月に実施した生活アンケートの項目「地域や社会をよくするために何かできることはないかと考えることがある」では100%の児童が肯定的回答（「あてはまる」が昨年度の37%から94%に上昇）に増加した。また、学習を通して、国の政治の働きに対して興味・関心を示し、よりよい社会について主体的に考える姿や自信をもって自分の意見を話し、他者の意見を聞いて、考える姿がみられた。

【課題】「よりよい地域社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする子ども」を学校全体で育てるためには、教員同士の綿密な情報共有やカリキュラム設計が必要である。教員同士の共通理解を図り、年間計画を立てて、系統立った校内体制の確立が課題である。